

安定的・計画的なイチゴ共同販売の実現

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

大津・南部地域のイチゴ生産は、これまで直売所出荷や庭先販売が中心でしたが、生産者の増加などから市場出荷を望む声が上がっていました。しかし、個人での市場出荷は出荷量が安定せず、価格が低迷しやすいことから、安定した収益を得るためには、グループでの出荷が必要でした。

そこで、JA レーク滋賀と連携し、共同販売を希望する生産者5戸を対象に、安定的・継続的な市場出荷に向けた支援を行いました。

【普及活動の内容】

①組織化を目指した連携会議の開催

出荷までに5回の連携会議を開催し(写真1)、組織の在り方やそれを担保する規約の策定、出荷方法やブランドコンセプト、統一ロゴ(写真2)の使用など、JA 担当者を交え、生産者で話し合いを重ねました。

②需要に応じた品質を実現する栽培技術指導

安定した品質のイチゴを継続して生産することを目指し、個別巡回による生産者への技術指導を行いました。



写真1 連携会議の様子

【普及活動の成果】

令和3年12月2日に規約が制定され、新たに合流した1戸を加えた6戸で、正式に「びわこいちご共同販売グループ」が発足しました。また、この場で市場への出荷量(約束数量)を決め、継続的で安定した出荷を行うことを決定しました。出荷は1月から開始され、現時点(R4年2月末)では計画通り出荷できており、市場単価も安定しています。

今後は出荷量の増加を目指して、仲間づくりや生産安定に向けた取組を行う予定です。



写真2 「びわこいちご」
統一ロゴ

◎対象者の意見

共同販売グループの組織が形になり、安定した市場出荷ができるようになって非常に助かりました。今後は販売量を増やしていきたいです。(共同販売グループ代表L氏)